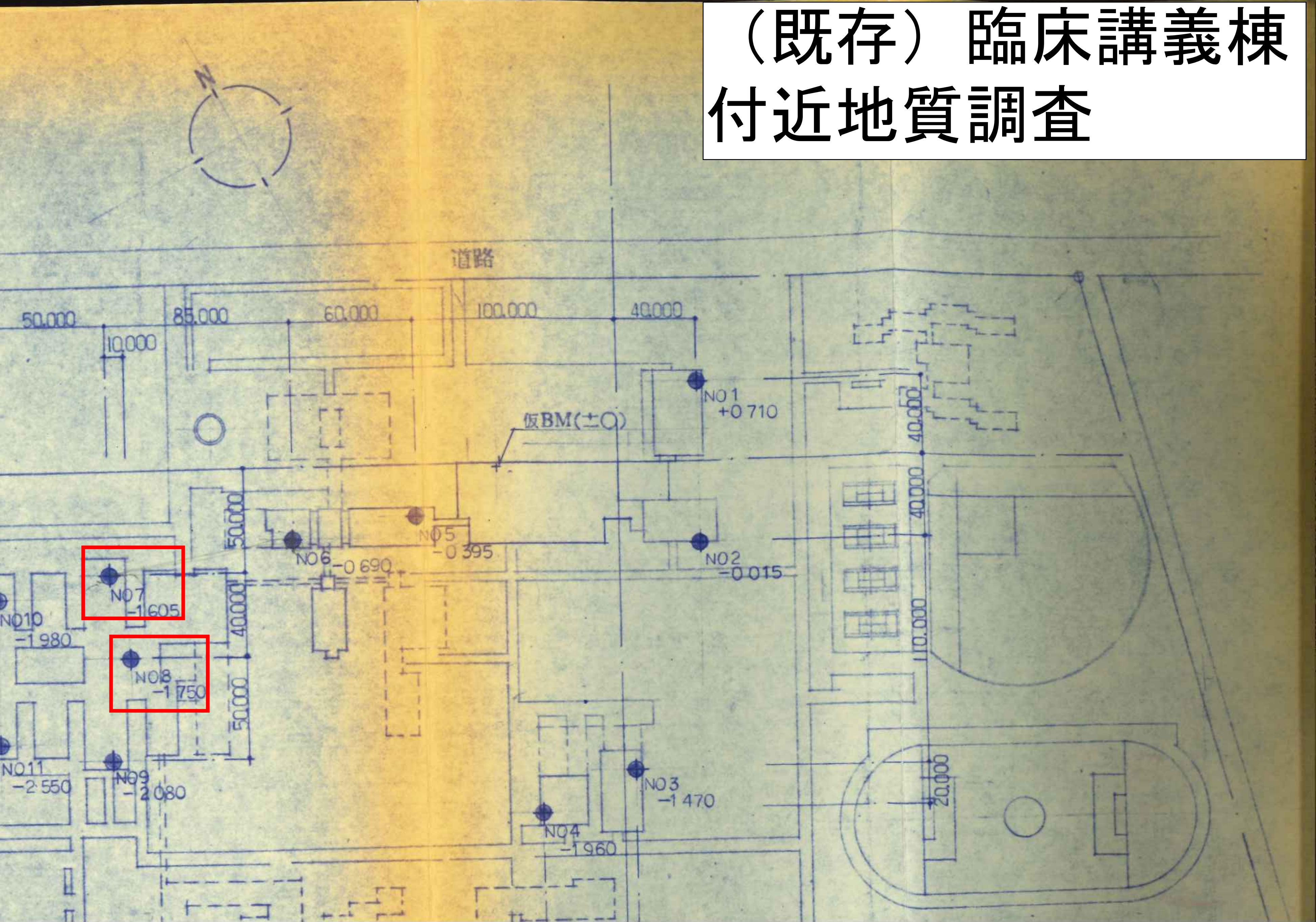
（既存）臨床講義棟付近地質調査



（既存）臨床講義棟付近地質調査

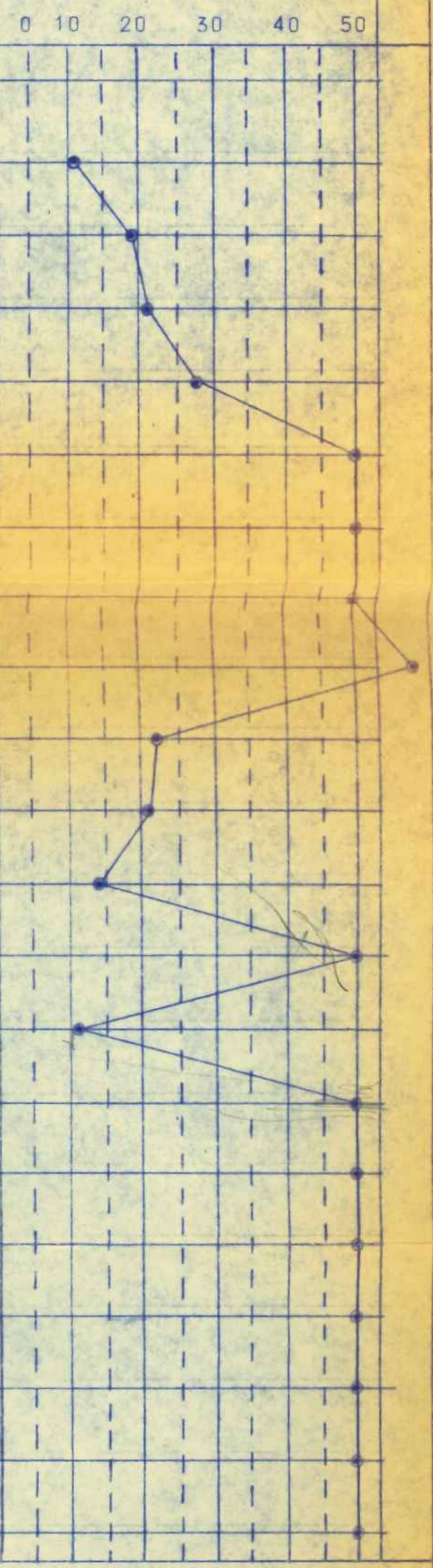
NO. 7

ボーリング番号	NO 7
所在地	
調査期日	
ボーリング工法	ロータリー式
基準	
実施者名	

深度 (m)	水位 (m)	層厚 (m)	試料採取位置	土質名	色調	記事
0 – 0.150		0.150	①	表土		
3.200		3.050	②	粘土		粘土層火山灰有り. 非常に粘着力有り締っている.
4.500		1.300	③	粘土質火山灰		
5.700	4.800	1.200	④	礫交り粘土質火山灰		5.100付近に玉石有り貫入不能 地下水少々有り.
8.500		2.800	⑤	火山灰交り砂礫		礫φ2〜6cm位 非常に締っている
11.000		2.500	⑥	火山砂		火山灰が3〜5cm位の層厚で所々に挟んでいる. やゝ締っている.
11.700		0.700	⑦	火山灰		ゆるい
12.800		1.100	⑧	礫交り火山砂		礫φ3〜5cm位. 締っている.
13.500		0.700	⑨	火山灰		非常にゆるい
20.000		6.500	⑩	砂礫		非常に締っている.

標準貫入試験

貫入深度 m	N値	10cm毎の打撃回数 10	20	30
1.100 – 1.400	11	3	3	5
2.100 – 2.400	19	4	6	9
3.100 – 3.400	21	5	7	9
4.100 – 4.400	28	6	9	13
5.100 – 5.130	50/3	50		
6.100 – 6.330	50/23	19	23	8
7.100 – 7.270	50/17	24	26	
8.100 – 8.380	58/28	17	27	14
9.100 – 9.400	22	7	8	7
10.100 – 10.400	21	7	7	7
11.100 – 11.400	14	4	5	5
12.100 – 12.350	50/25	20	20	10
13.100 – 13.400	11	2	3	6
14.100 – 14.230	50/13	36	14	
15.100 – 15.120	50/2	50		
16.100 – 16.210	50/11	39	11	
17.100 – 17.180	50/8	50		
18.100 – 18.250	50/15	32	18	
19.100 – 19.160	50/6	50		
20.100 – 20.140	50/4	50		



備考

（既存）臨床講義棟付近地質調査

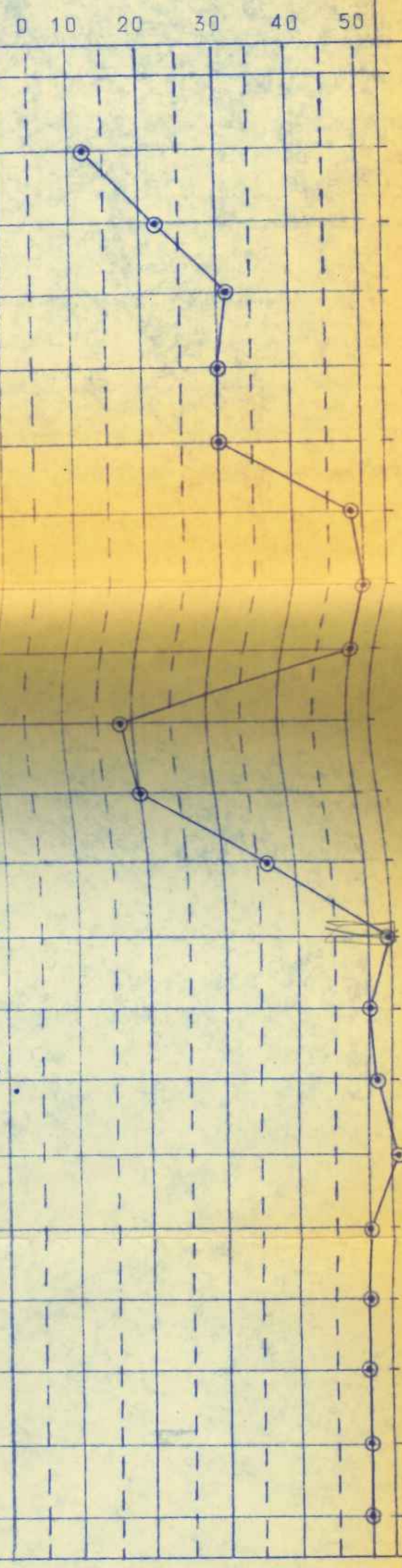
NO. 8

ボーリング番号	NO 8
所在地	
調査期日	
ボーリング工法	ロータリー式
基準	
実施者名	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	水位 (m)	層厚 (m)	資料採取位置	土質記号	土質名	色調	記事
0		0.200		0.200	①		表土	暗茶	0～0.200 ゆるい
		2.800		2.600	②		火山質粘土	乳灰	0.200～2.800. やゝゆるい
		4.500		1.700	③		火山質粘土	青灰	2.800～4.500 やゝ締っている
		5.000		0.500	④		火山砂	黄褐	4.500～5.000 やゝ締っている やゝ粘土質である
		9.100		4.100	⑤		礫交り火山質粘土	黄灰	5.000～9.100 締っている
		10.800		1.700	⑥		火山灰	乳灰	9.100～10.800 やゝゆるい
20		20.170		9.370	⑦		火山質砂礫	暗黄灰	10.800～20.000 締っている レキ径 0.5～3cm

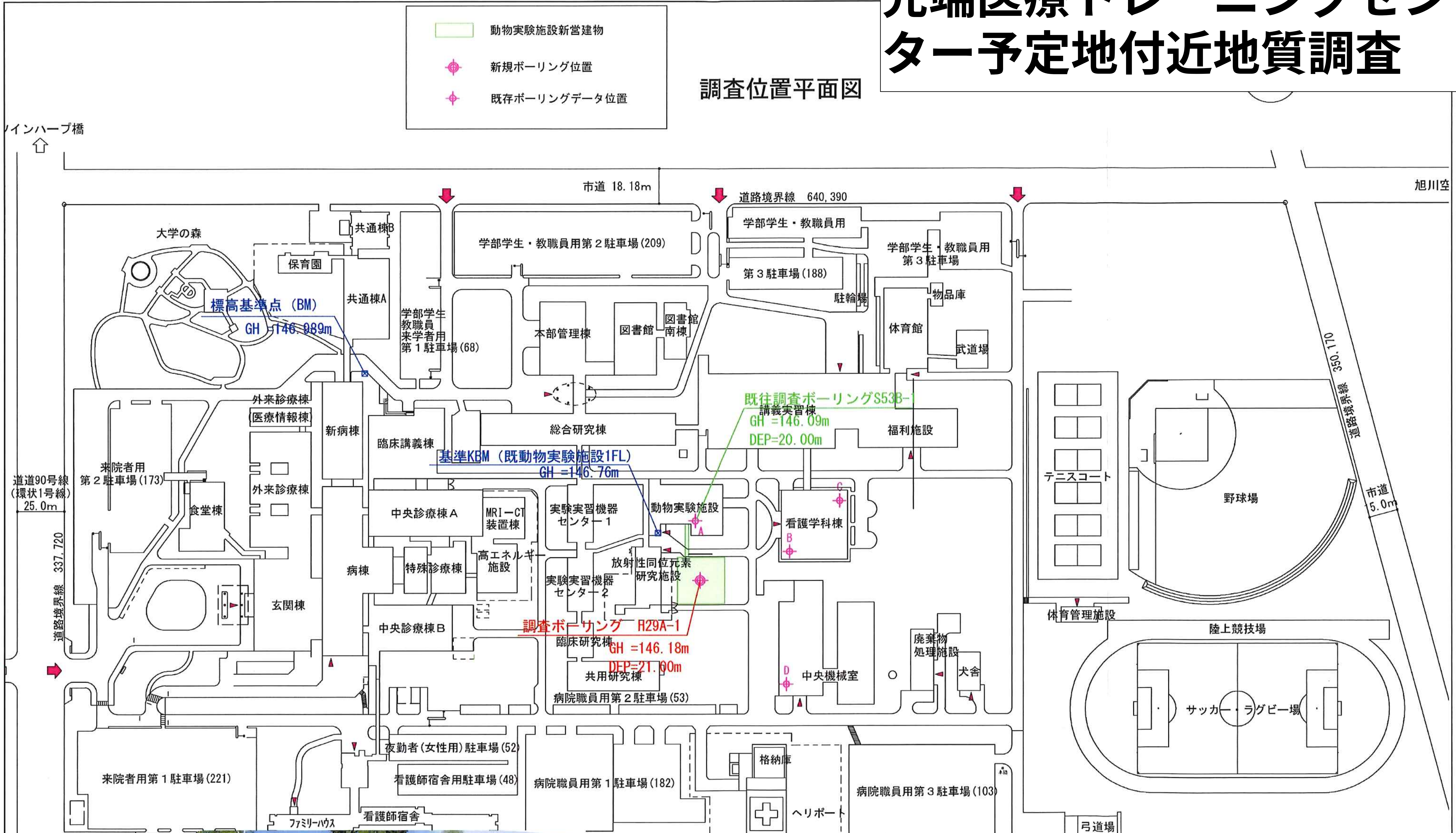
標準貫入試験

貫入深度 m	N値	10cm毎の打撃回数 10	20	30
1.000 / 1.300	12	3	4	5
2.000 / 2.300	22	5	7	10
3.000 / 3.300	31	8	11	12
4.000 / 4.300	30	7	10	13
5.000 / 5.300	30	9	9	12
6.000 / 6.300	48	12	18	18
7.000 / 7.180	50/18	21	29	
8.000 / 8.170	50/17	24	26	
9.000 / 9.300	18	10	5	3
10.000 / 10.300	20	5	8	7
11.000 / 11.300	36	7	13	16
12.000 / 12.250	53/25	17	22	14
13.000 / 13.200	50/20	19	31	
14.000 / 14.250	51/25	17	21	13
15.000 / 15.200	54/20	21	33	
16.000 / 16.120	50/12	32	18	
17.000 / 17.160	50/16	27	23	
18.000 / 18.140	50/14	29	21	
19.000 / 19.170	50/17	21	29	
20.000 / 20.170	50/17	20	30	



備考

先端医療トレーニングセンター予定地付近地質調査



調査地全景

図 1.2 調査位置平面図

先端医療トレーニングセンター予定地付近地質調査

ボーリング柱状図

調査名　旭川医科大学動物実験施設新営用地地盤調査

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.

ボーリング名	H29A-1	調査位置	旭川市緑が丘東2条1丁目1-1（旭川医科大学構内）			北緯	43° 43’ 42.10″
発注機関	国立大学法人　旭川医科大学			調査期間	平成29年5月8日～29年5月9日	東経	142° 23’ 5.83″
調査業者名	中央開発株式会社 札幌支店 電話（011-842-4155）	主任技師	神部　創	現場代理人	神部　創	コア鑑定者	神部　創
						ボーリング責任者	遠藤　勝利
孔口標高 ※	KBM -0.58m	角度	180° 上 / 90° / 下 0° / 0°	方向	北 0° / 270° 西 / 90° 東 / 180° 南	地盤勾配	水平 0° / 鉛直 90° / 0°
総掘進長	21.00m	使用機種	試錐機	鉱研製　OP-1	ハンマー落下用具	半自動落下装置	
			エンジン	ヤンマー製NFD-12	ポンプ	-	

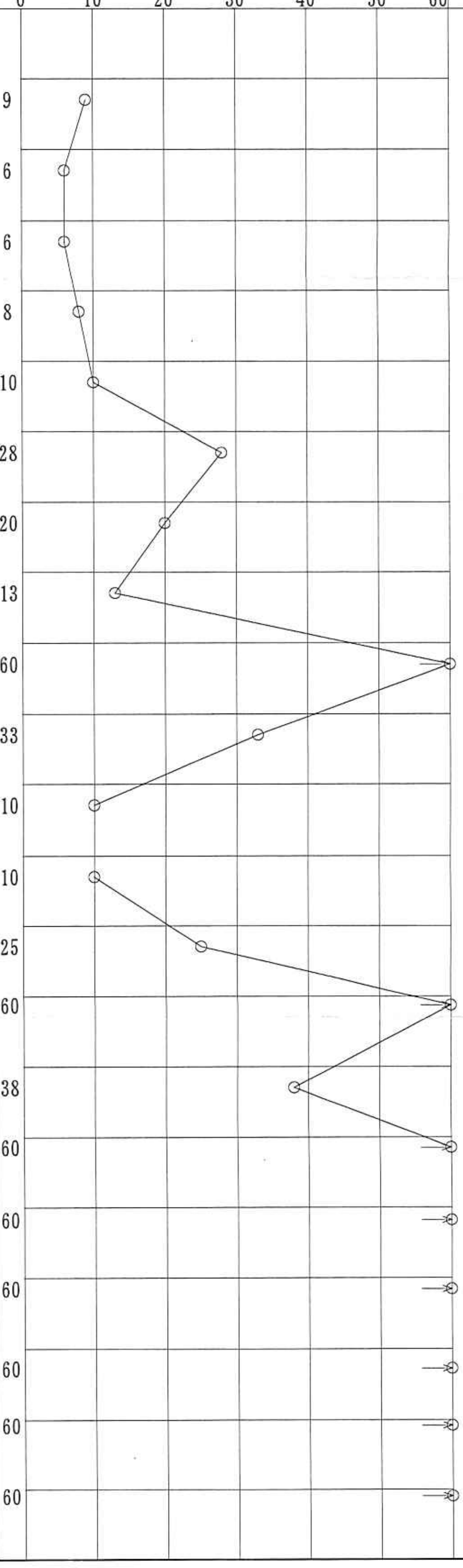
標尺 m	標高 ※ m	層厚 m	深度 m	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	-1.28	0.70	0.70		盛土	褐灰			粘土主体。火山灰質土（黄灰色）や有機質土（黒灰）を混入。含水は少ない。粘性は強い。
1	-1.58	0.30	1.00		有機質シルト	黒灰			砂混じり有機質シルト主体。含水はやや多い。
2	-3.08	1.50	2.50		粘土	褐灰		中位の	全体に褐色を呈した均質な粘土。含水は少ない。粘性は強い。
3–5	-6.03	2.95	5.45		粘土	灰		中位～硬い	灰色を呈す均質な粘土。含水は少ない。粘性は強い。
6–7	-8.28	2.25	7.70		火山灰質砂	茶褐～褐灰	中位の		中粒～粗粒サイズの砂からなる。上位地層境界部は茶褐色を呈し酸化を受ける。含水は少ない。深度6.5mまで褐灰色を呈す。深度6.5m以深，下位ほど徐々に細粒分が多くなる。
8–9	-9.83	1.55	9.25		火山灰質シルト	褐灰		硬い	シルトサイズの粒子からなる細粒火山灰。所々に火山灰質砂の薄層を挟在する。含水は少ない。
	-10.23	0.40	9.65		火山灰質砂	褐灰	密な		細粒～中粒サイズ。含水は少位。
10	-10.53	0.30	9.95		礫混じり砂	褐灰			径5～30mmの亜円礫～円礫を10%程度含む。基質は火山灰質砂。
	-11.58	1.05	11.00		火山灰質砂	褐灰	密な		細粒～中粒サイズ。含水は少位。
11	-11.83	0.25	11.25		火山灰質シルト	褐灰			均質な粘土。含水少位。粘性強。
12	-13.23	1.40	12.65		火山灰	褐灰～黄灰	中位の		細粒火山灰を主体とする。火山灰質シルト質砂状。所々細砂～中砂の薄層を挟在。
13	-14.18	0.95	13.60		火山灰質シルト	青灰～褐灰		非常に硬い	均質なシルト～粘土。含水は少ない。粘性は弱い。
14	-15.48	1.30	14.90		砂礫	褐灰～茶褐	非常に密な		径5～30mmの円礫を30～50%程度含む。礫種は安山岩，溶結凝灰岩。基質は火山灰質砂。含水はやや多い。
15	-16.18	0.70	15.60		礫混じり砂	褐灰	密な		φ5～30mmの円礫を5～10%程度含む。基質は中粒～粗粒サイズの火山灰質砂。含水は中位。
16–21	-21.58	5.40	21.00		砂礫	褐灰	非常に密な		全体に不均質で淘汰不良。径5～30mm（最大切長50mm）の亜円礫～亜角礫を30～50%程度含む。礫種は安山岩，溶結凝灰岩。基質は火山灰質砂からなり，粒度分布は広い。含水は中位。

孔内水位 m／測定月日：5/8　0.80

標準貫入試験

深度 m	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 cm	N値
1.15～1.45	2	3	4	9/30	9
2.15～2.45	1	2	3	6/30	6
3.15～3.45	2	2	2	6/30	6
4.15～4.45	2	2	4	8/30	8
5.15～5.45	2	3	5	10/30	10
6.15～6.45	7	10	11	28/30	28
7.15～7.45	6	8	6	20/30	20
8.15～8.45	3	5	5	13/30	13
9.15～9.45	4	13	43	60/30	60
10.15～10.45	9	11	13	33/30	33
11.15～11.45	3	3	4	10/30	10
12.15～12.45	4	3	3	10/30	10
13.15～13.45	7	9	9	25/30	25
14.05～14.20	38	22/5		60/15	60
15.15～15.45	12	12	14	38/30	38
16.05～16.24	27	33/9		60/19	60
17.05～17.32	24	19	17/7	60/27	60
18.05～18.26	25	32	3/1	60/21	60
19.15～19.41	16	18	26/6	60/26	60
20.00～20.16	44	16/6		60/16	60
21.00～21.19	31	29/9		60/19	60

N値 —○—



原位置試験（深度 m／試験名および結果）

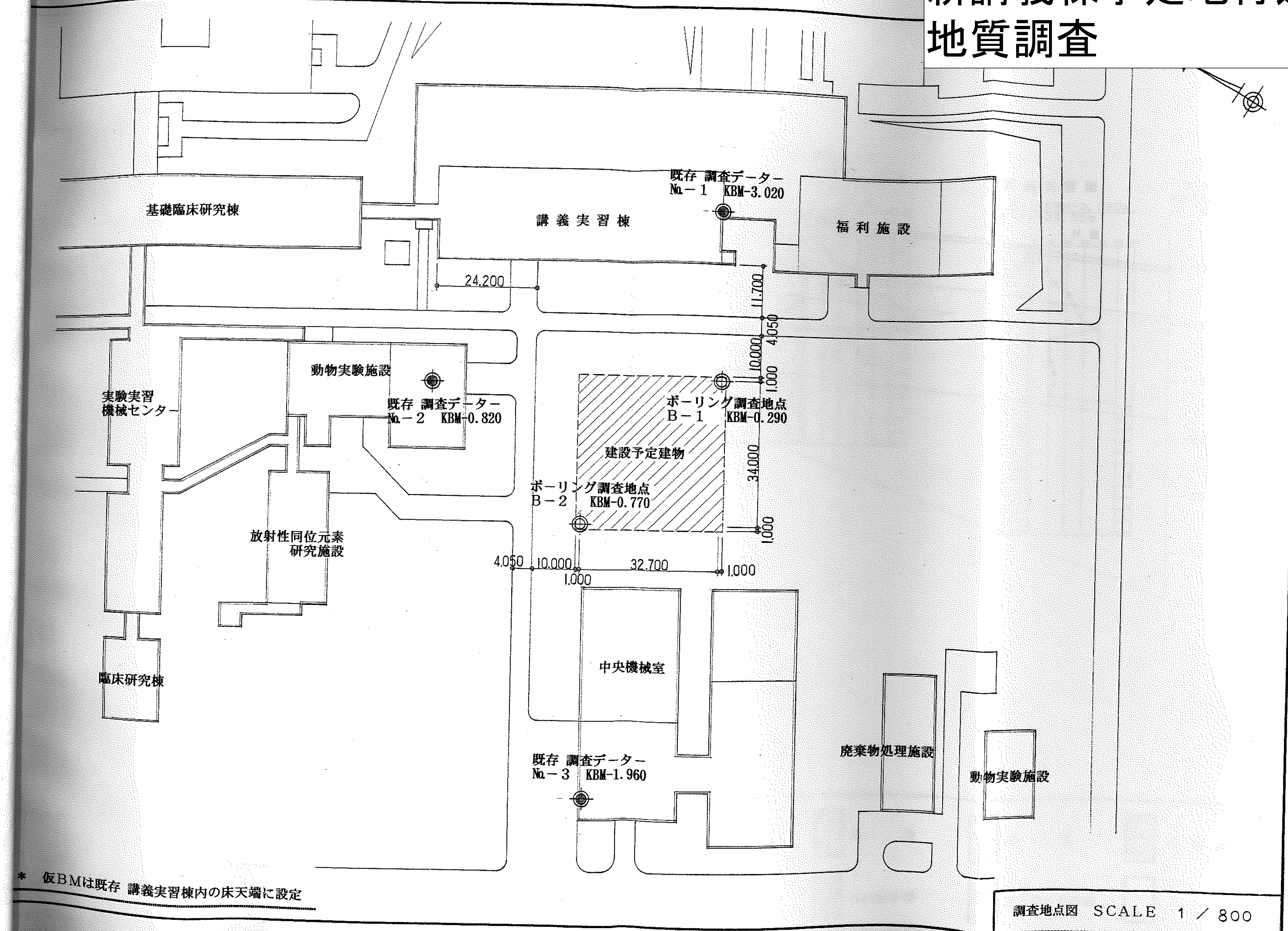
試料採取 深度 m	試料番号	採取方法	室内試験
12.00～12.50	P-1	P	密度 含水 粒度

掘進月日：5/8（12m付近まで）、5/9（21m付近まで）

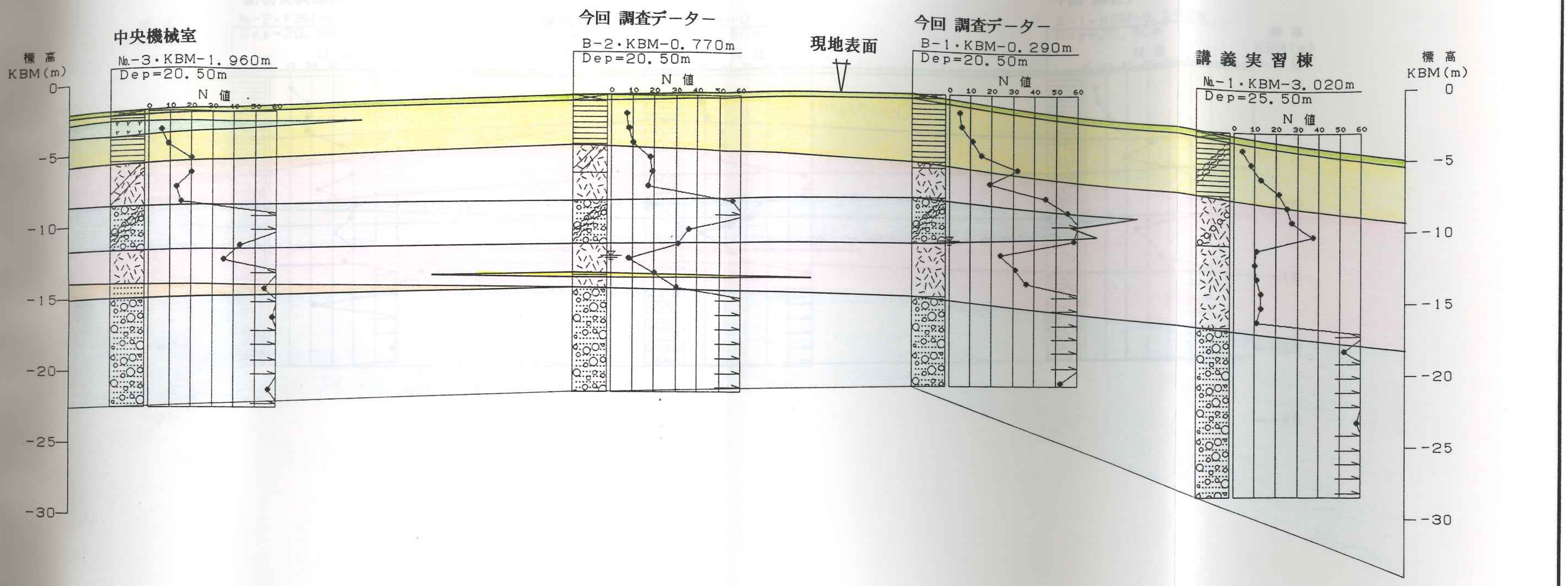
※基準KBM＝既動物実験施設1FL (GH=146.76m)

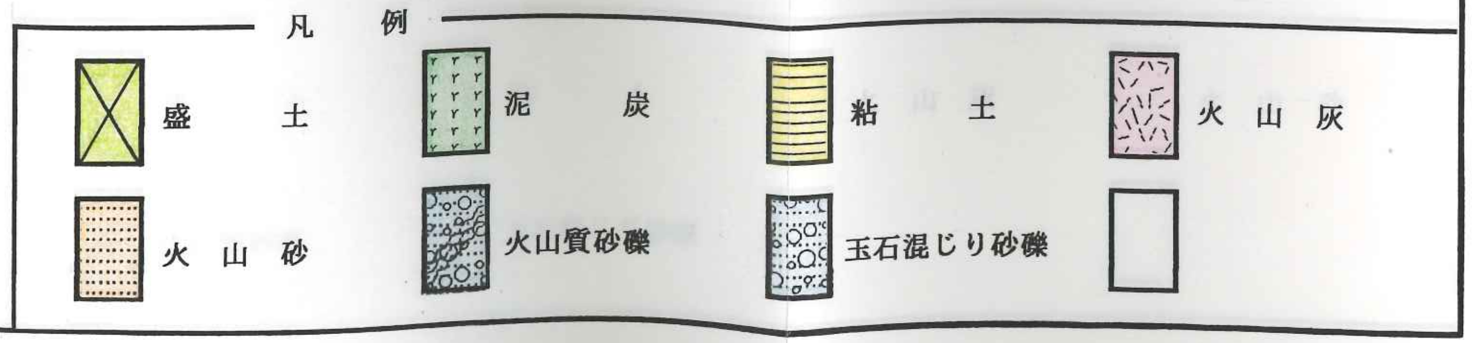
□：孔口標高及び標高は基準KMBからの比高で示す

新講義棟予定地付近
地質調査



新講義棟予定地付近
地質調査

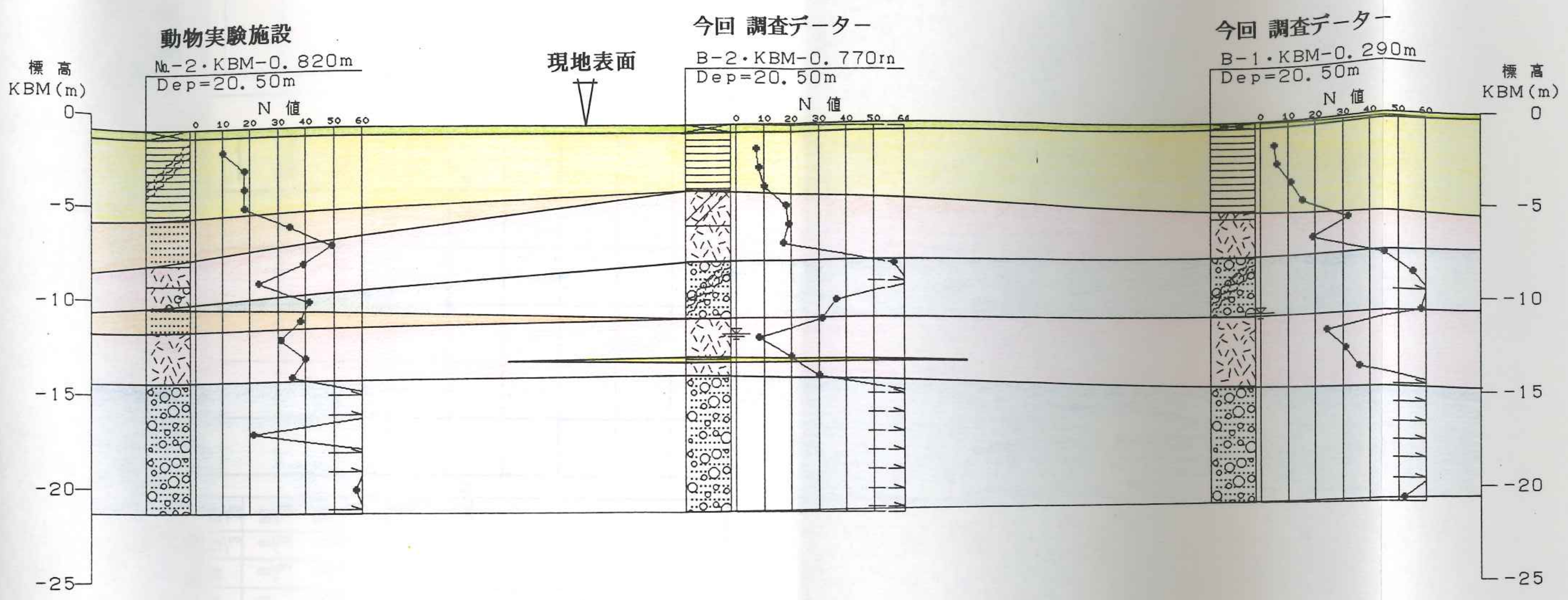




1 : 600
SCALE

推定地層断面図

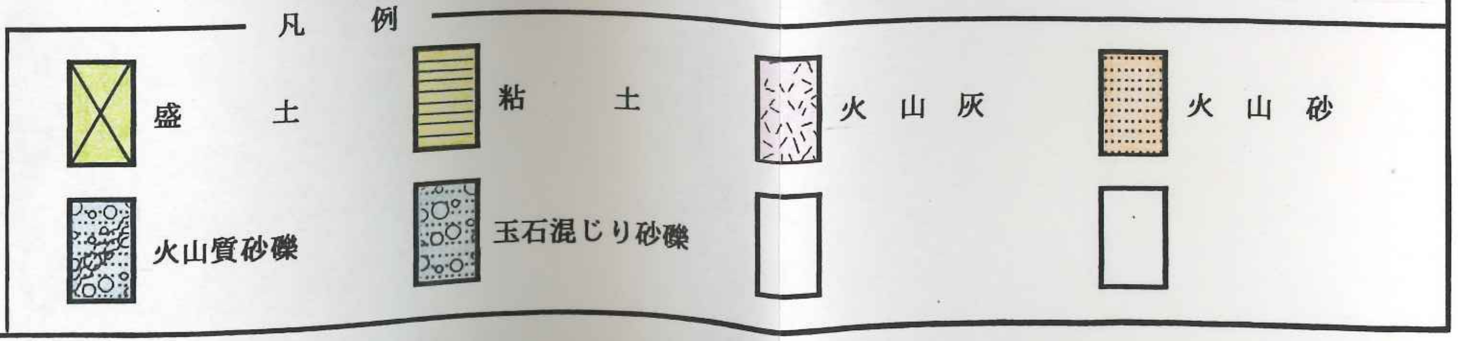
新講義棟予定地付近
地質調査



1：500

SCALE

推定地層断面図



新講義棟予定地付近
地質調査

調査名 旭川医科大学看護学科棟地盤調査

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B－1	調査位置	旭川市西神楽4線5号3番地の11（旭川医科大学構内）			北緯	
発注機関			調査期間	1996年11月12日～1996年11月14日		東経	
調査業者名	株式会社 建設コンサルタント 電話(011-737-1111)	主任技師	藤田義治	現場代理人	蝦名隆文	コア鑑定者	元由隆己
ボーリング責任者	元由隆己						
孔口標高	KBM -0.290m	角度	180° 上 / 下 0° / 90°	方向	北0° 東90° 南180° 西270°	地盤勾配	水平0° 鉛直90°
総掘進長	20.50m	使用機種	試錐機	鉱研式OP－1型	ハンマー落下用具	トンビ	
			エンジン	ヤンマーNF110	ポンプ		

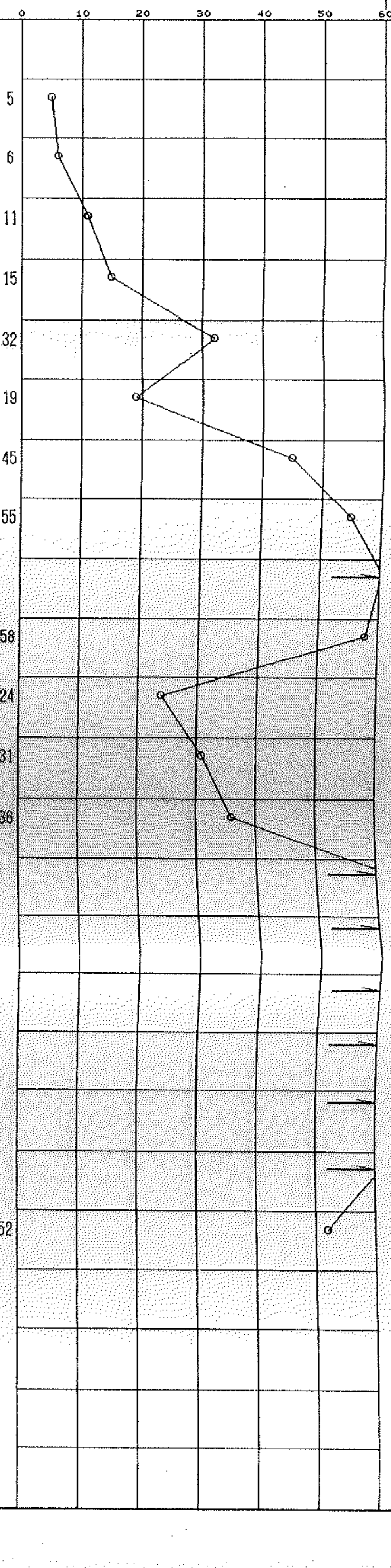
標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-0.59	0.30	0.30	盛土	暗褐	緩い		土質は腐植土の混入する粘土が主体
-5.09	4.50	4.80	粘土	灰	中密～密な		全体を通じて粘性は強く、土質状況も3.0m付近に粘土質火山灰を薄く挟在する他は混入物も見られず均質な状態である。又、含水も少ない事から粘性土としては密度は良く締まっており、上部は中密程度も下層に従って密である
-5.49	0.40	5.20	粘土質火山灰	茶褐	中密		粒子細かく均質で部分的に粘土挟在
-7.59	2.10	7.30	火山灰	黄灰	中密		粒子は全体的に細中粒が主体も粗く平均に径10mm前後の火山礫も混入する為、間隙は不均一ながらも密度は部分的に固結し治癒雨密程度
-10.79	3.20	10.50	火山質砂礫	黄灰	非常に密		全体的に火山灰質を帯びており、礫間にも多量の火山灰及びシルト質火山灰等が見られるが径10～40mm程度の角礫も多量の為、間隙は非常に粗く不均一な状態も密度は全体に非常に良く締まっている。
-14.49	3.70	14.20	火山灰	黄灰	中密～密		火山灰の粒子は細中粒が主体ながらやや粗く、全体的な量は少ないが径10～30mm程度の角礫が混入している為、土質状況は不均一密度は全体に良く締まっている。
-20.79	6.30	20.50	玉石混じり砂礫	黄灰	非常に密		土質は中粗粒の火山砂及び径10～40mm位の角礫が主体となっているが、局部的に増減しながらやや多くの火山灰も混入している。又、玉石は径100～150mm位が所々に点在程度に混入している。従って、全体の土質状況は非常に不均質で且つ不均一な状態で堆積も密度は全体を通じて非常に密で良く締まっている

孔内水位（m）／測定月日：10.30

標準貫入試験

深度 (m)		0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1.45	1	2	2	5/30	5
2.15	2.45	1	2	3	6/30	6
3.15	3.45	3	4	4	11/30	11
4.15	4.45	4	5	6	15/30	15
5.15	5.45	8	11	13	32/30	32
6.15	6.45	6	6	7	19/30	19
7.15	7.45	12	12	21	45/30	45
8.15	8.45	17	17	21	55/30	55
9.15	9.41	15	26	19/6	60/26	
10.15	10.45	14	24	20	58/30	58
11.15	11.45	7	8	9	24/30	24
12.15	12.45	8	11	12	31/30	31
13.15	13.45	13	11	12	36/30	36
14.15	14.34	19	41/9	0/0	60/19	
15.15	15.24	60/9	0/0	0/0	60/9	
16.15	16.38	13	34	13/3	60/23	
17.15	17.25	60	0/0	0/0	60/10	
18.15	18.23	60/8	0/0	0/0	60/8	
19.15	19.40	22	26	12/5	60/25	
20.15	20.45	11	22	19	52/30	52

N値 —○—



原位置試験：深度 (m)／試験名および結果

試料採取

深度 (m)		試料番号	採取方法
1.00	1.50	1-1	⊖
2.00	2.50	1-2	⊖
3.00	3.50	1-3	⊖
4.00	4.50	1-4	⊖
5.00	5.50	1-5	⊖
6.00	6.50	1-6	⊖
7.00	7.50	1-7	⊖
8.00	8.50	1-8	⊖
9.00	9.50	1-9	⊖
10.00	10.50	1-10	⊖
11.00	11.50	1-11	⊖
12.00	12.50	1-12	⊖
13.00	13.50	1-13	⊖
14.00	14.50	1-14	⊖
15.00	15.50	1-15	⊖
16.00	16.50	1-16	⊖
17.00	17.50	1-17	⊖
18.00	18.50	1-18	⊖
19.00	19.50	1-19	⊖
20.00	20.50	1-20	⊖

室内試験（ ）　掘進月日

新講義棟予定地付近地質調査

調　査　名　旭川医科大学看護学科棟地盤調査

事業・工事名

ボーリングNo.	

シートNo.

ボーリング名	B－2	調査位置	旭川市西神楽4線5号3番地の11（旭川医科大学構内）					北緯	
発注機関		調査期間	1996年11月15日～1996年11月16日					東経	
調査業者名	株式会社　建設コンサルタント 電話（011－737－1111）	主任技師	藤田義治	現場代理人	蝦名隆文	コア鑑定者	元由隆己	ボーリング責任者	元由隆己
孔口標高	KBM -0.770m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	試錐機	鉱研式OP－1型
総掘進長	20.50m					使用機種		エンジン	ヤンマーNF110
								ハンマー落下用具	トンビ
								ポンプ	

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-1.17	0.40	0.40		盛土	暗褐	緩い		腐植土が不規則に混入する粘土主体
-4.27	3.10	3.50		粘土	灰	中密		粒子は細粒均質で混入物も見られず粘性も強い為、粘性土としては良く締まっており、中密度を有する。
-6.17	1.90	5.40		粘土質火山灰	乳灰	中密		火山灰の粒子は平均に中粒が多い為間隙は粗く不均一な状態で粘土質を帯びる為、粘性もやや強い、しかし密度は全体を通じて中密程度。
-8.07	1.90	7.30		火山灰	黄灰	中密		粒子は中粗粒が主体で下層に従って粗くなり、火山礫も混入している為間隙も不均一、密度は中密～やや密
-11.07	3.00	10.30		火山質砂礫	茶灰	非常に密～密		全体的には火山灰質を帯びており特に上部では固結した細粒火山灰が多量、礫は径10～30mm程度が主体で多く、玉石も点在している密度は9.0m付近から以深で若干緩くなっているが良く締まっている
-13.07	2.00	12.30		火山灰	乳灰	緩い～中密		上部はシルト質火山灰で粒子細粒も含水が非常に多く密度緩いが以深は中粒主体で不均一も密度は中密程度
-13.37	0.30	12.60		粘土	黄灰	密な		火山灰質も均質な粘土で締まってる
-14.07	0.70	13.30		火山灰	黄灰	中密		全体に径10mm前後の礫が混入し間隙不均一も比較的締まっている。
-21.27	7.20	20.50		玉石混じり砂礫	黄灰	非常に密		全体の土質状況は中粗粒の火山砂及び中粗粒の火山灰に径10～40mm程度の角礫が混入する状態で間隙は非常に粗く不均一ながらも含水も比較的少なく密度は非常に密で良く締まっている。又、玉石は径100mm前後が所々に混入している。

孔内水位（m）／測定月日：11.10

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15～1.45	2	2	3	7/30	7
2.15～2.45	2	3	3	8/30	8
3.15～3.45	2	4	4	10/30	10
4.15～4.45	5	6	7	18/30	18
5.15～5.45	4	6	9	19/30	19
6.15～6.45	5	6	6	17/30	17
7.15～7.45	10	14	32	56/30	56
8.15～8.41	20	24	16/6	60/26	
9.15～9.45	7	17	12	36/30	36
10.15～10.45	14	10	7	31/30	31
11.15～11.45	2	3	3	8/30	8
12.15～12.45	6	8	6	20/30	20
13.15～13.45	7	10	13	30/30	30
14.15～14.31	34	26/6	0/0	60/16	
15.15～15.28	39	21/3	0/0	60/13	
16.15～16.29	39	21/4		60/14	
17.15～17.32	35	25/7	0/0	60/17	
18.15～18.33	33	27/8	0/0	60/18	
19.15～19.36	18	37	5/1	60/21	
20.15～20.33	35	25/8	0/0	60/18	

原位置試験：深度（m）／試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法
1.00～1.50	2-1	㊀
2.00～2.50	2-2	㊀
3.00～3.50	2-3	㊀
4.00～4.50	2-4	㊀
5.00～5.50	2-5	㊀
6.00～6.50	2-6	㊀
7.00～7.50	2-7	㊀
8.00～8.50	2-8	㊀
9.00～9.50	2-9	㊀
10.00～10.50	2-10	㊀
11.00～11.50	2-11	㊀
12.00～12.50	2-12	㊀
13.00～13.50	2-13	㊀
14.00～14.50	2-14	㊀
15.00～15.50	2-15	㊀
16.00～16.50	2-16	㊀
17.00～17.50	2-17	㊀
18.00～18.50	2-18	㊀
19.00～19.50	2-19	㊀
20.00～20.50	2-20	㊀

室内試験（　）　掘進月日